発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033番
7140番
編集兼発行人　堤　孜

安保打破への結集

第三十回メーデー　全国で四百万が参加

働くものの祭典第三十回統一メーデーは、五月一日、総評・全労・中立系各労働者が参加して全国各地で一斉に催された。全国四百七十カ所、約四百八十万人が集つてひらいたが、大牟田では笹林公園に約四万、荒尾では第二小学校校庭で約二万人が盛大なメーデーをひらいた。ことしのメーデーは安保闘争、安保条約改訂の渦中にあるだけに、晴やかさの中にも闘いの決意をみなぎらした大きな高まりの中で労働者の意気を示した。

お母さんも子供も楽しそうにデモ行進に参加した

紙吹雪あびて大行進

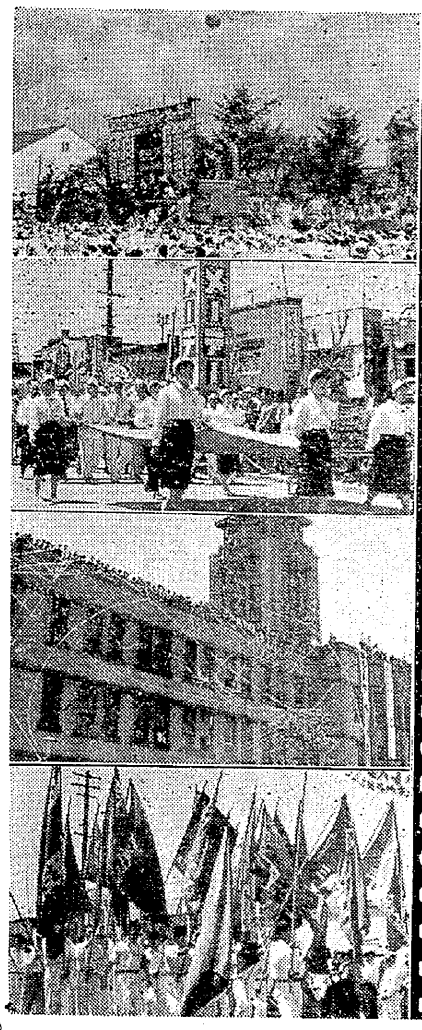
大牟田地区統一メーデーは笹林公園で午時十時に幕をあけた。クツキリと晴れわたつた初夏の青空のもとに、プラカードや仮装車がぞくぞくと会場を埋め、労金から掲げた「祝メーデー」のアドバルーンが、五月の薫風にあられながらユラリユラリとただよつている。目も鮮やかな色彩が会場を埋めたなかで、大地評浦本軍務局長の司会で開会宣言の瞬間、パツと、尾にテープをつけたハトが三羽飛びたつた。

この日、とくにメーデーを祝して大牟田伝書鳩クラブから百羽の鳩が用意され、平和の鳩が中天高く舞いあがる劇的な光景もみられた。議長団選出、実行委員長挨拶ののち「安保条約改定反対、日中国交と領土の完全回復、岸内閣打倒」など六項目のスローガンを採択、決議文、大会宣言を採択して、恒例のデモ行進に入つた。

デモは笹林公園―郵便局前―警察署前―市役所前―五月橋―東新町のコース。デモの先頭に議長団（三鉱、革商連、農民団体、電労、婦人）とともに田中代議士、細谷市長が立ち、沿道の歓声に応えながら堂々と行進した。

市役所前にデモ隊がさしかかると市労連組合員たちが庁舎屋上からテープ、紙吹雪を散らしてデモに応え、メーデーの興奮はここでクライマックスに達した。

これより田中代議士、細谷市長らは市役所前に待期した「はたかせ」一車上に立ち、つぎつぎと通過するデモ行進に手を振つて応えたが市長個票数がデモ行進隊につぎつぎと報告されるたびにドツと歓声が湧く、行進する組合員も家族の顔も五月晴れのように晴れ晴れとしている。



安保条約改定反対、岸内閣打倒のプラカードがことしのメーデーでは圧倒的に多く、激しい資本攻勢の中で立上つた労働者が、ますます統一して闘いを求めていることをはつきりと示していた。

【1】笹林公園に集つた四万の組合員・家族
【2】デモ行進は沿道の歓声を浴びて進む
【3】テープと紙吹雪の舞う市庁舎
【4】組合旗も林立してデモは進む

前進

地方選挙をおわつて

私たちは、市町村長および市町村会議員選挙で、組織としての公認・推せん候補をたてて、果敢な闘いをくりひろげた。その結果二十五名の公認・推せん候補者中二十四名が当選し一名次点という成果をおさめることができた。

また、大地評、荒地評の公認・推せん候補四十名中、三十八名が当選し大牟田、荒尾両市とも革新市長と過半数の革新議員を確保することができた。これは組織労働者の力、いわゆる「組織の力」による成果であり、組織の力の強さをしめしたものであつた。

過半数の革新議員をおくりこんだ私たちは、新政治局員ともども、市民の信頼を得るにたる政治を推進する責務があることを再認識すべきであろう。

私たち組合員と家族が投じた一票一票は、自らの力で「平和」と「生活」を守る政治をつくる自覚にうらづけられた一票であつたし、その一票が大きく結集されて保守勢力を動揺させたことを評価し、その大衆の力こそこれからの議会闘争を支える「力」であることを再認識せねばならない。

さらに労働者階級の力に押された敵が金力と権力をほしいままにし、悪質なデマと中傷をまじえた必死な「巻かえし」と「攻撃」を加えてきたことも見逃してはならない。そして、労働者でさえ一部にはこの敵の宣伝と攻撃に影響されて相当数の組織票が外部に流れたことを十分反省し、今後の対策を確立する必要がある。例えば大牟田市議選で会社側候補が四千をこえる最高票を得たことなどは十分検討しなければならないことである。

つまり、こんどの地方選にしめした組織の力は大きなものがあつたが、労働者階級全体をみると尚不十分な点が指摘できる。

私たちは自らが選出した政治中闘とともに労農商提携を強め、階級政党を含めた全体的な闘争力を強化し、動揺し挑発する敵を粉砕しなければならない。

革新候補のパレードに先頭を行く崎知事

發揮した組織の力

23名中22名が当選

県知事、県議選に引きつづいて四月三十日市町村議選が全国一斉にふたあけした。

三鉱労組からは大牟田市議九名、荒尾市議十一名、柳川市議一名、高田町議二名の計二十三名の候補者をおし立て、着々と闘いをすすめてきた。

きわめて重要な地方選挙といわれるだけに、各都市とも異常に高い投票率をみせているが、これは住民が政治に対する関心を示したこととして大いに注目されていた。

当落の見通しもつかない全く激しい闘いに投げこまれた中で闘いがすすめられてきたが、日ごろの組織づくりと団結が実を結ぶも、空になるのもこの一戦にかかつているものとして、その成り行きに異常な関心がよせられていたが、組織の力は見事に発揮されて、大牟田市議会員、荒尾市議は惜しくも河野候補が次点で惜敗したが他の十名が、これまた堂々と当選を勝ちえた。

また、保守色の強い柳川、高田町でも全員が当選する好成績をおさめることができた。

一方、大地評、荒地評の公認、推薦候補も有利に闘いを進め、このため両市とも革新で議席の過半数を占める結果となり、組織の力が論示された。

のころは六月の参議院選だけとなつたが、安保条約改定、憲法改悪戦争への道を許さぬ労働者階級の意志を結集して闘わねばならない

賃闘長期化へ

中小は共同・山口のみ

賃上げ闘争で四月十三日から一斉四十八時間ストに入つた中小鉱各労組は九採、新屋敷が妥結、第二波四十八時間ストをへて、第三波四月二十日以降の無期限ストを前にして立川も解決、共同、山口両労組の闘争を残すのみとなつた。

【共同】会社は炭価の低落から更どうには不渡手形も出しかねぬと賃上げに応じない。組合では昨冬の人員整理のときの確約で、他社なみの賃上げに応じないのは協定に反すると鋭く追及している。

【山口】ゼロ回答のまま交渉は行われていない。賃上げの決意を会社幹部にうながしているが、争議の長期化は避けがたいもようである。

会社はかねて別府の現可採域の終掘をひかえ、三菱古賀山鉱区の譲渡を求めて交渉していたが、この交渉が停頓しているため、この問題の見通しが立たぬ状態では賃上げ所ではないといつている。

アメリカの為に……

宮浦上村

組合は政治色を帯びてはならない。経済闘争一本でゆくべきだと主張されていた人達も、こんどの平和闘争では、率先して闘つておられた姿をみて、やはり政治問題に関しての組合の指導性を認めて頂いたものと考えたい。

「二十八年のスト規制法制定によつて当時強力であつた電産労組が静かになつた。しかし炭労はますます組織を強化していつた。そこで政府と資本家は結束して、外国炭及び重油の輸入問題とからませて、国内炭の貯炭増大を図り、労働者の闘争条件を悪化させた上で企業整備を出し、組織の弱体化を狙つたのが、今回の合理化である」とは阿具根参議の評であるが先の臨職法闘争、あるいは現在の安保条約闘争も終り、経済闘争のみで組合はその使命を全うし得ないものである。強力なる組織の力が中心となつて反対闘争をまき起さなくてはならない。メーデーのスローガンにも掲げてあつたが、安保条約が改定されたら、日本はわれわれはどうなるだろうか。その目的はどこにあるのかすこし考えてみたい。

一九五七年ソビエトにおいて大陸間弾道弾の成功が報ぜられる以前、アメリカ独占資本は戦争をはじめることによつて「ドイツ・イギリス・フランス等の工業国がソビエトによつて破壊されることを喜び、自国との競争国を弱めて、莫大な利益をうることをもくろんでいた。ただし自国は地理的に見ても損害は少ないと計算していたが、レーダーの確認より爆発瞬間まで五十秒しかかからぬといわれる大陸間弾道弾の出現により「全面戦争は相討ちの恐れがあるので米英間に起つてきたのがいわゆる限定戦争というものであつた。これは原爆を戦術的に行使して局地戦争を遂行することである。その中でさえも味方の損害を防ぐために小型原爆の必要が迫られている」（軍事評論家新名丈夫氏）

この限定戦争の舞台が植民地であることはいうまでもない。この中に当然日本も含まれる。

そして、この基地は当然のこととして「誘導弾や空中攻撃の恰好の目標となる」ことは間違いないそしてその弾丸（？）は標準水爆でTNT一・〇〇〇万トンという破壊能力以外に副産物の死の灰を考えれば、日本の本土か近海に一発の水爆で第五福竜丸乗組員と同じ被害を全国民が受けるというしろものである。

アメリカの遠伝学者ハーマン・マーラ博士はいう、「広島・長崎の人々の子孫はやがて滅亡する。また遺伝作用によつて国民全体が劣等民族となるだろう」と。

そういえば、広島・長崎にはたくさんの奇型児も生れているという。戦争によつてこんな悲惨な結果となる日本国民をアメリカ帝国はどう処遇するのか。日本は米本土の身代りとなる「吸収基地」であると、アメリカの軍部がいつていることによつて、すべては解明される。

アメリカの指揮により、アメリカのために、憲法まで侵して民族滅亡の恐れさえある戦争をやらなくてはならないとは、どう考えても納得しかねる。こんな安保条約は改定どころか、むしろ破棄しなくてはならない。強力な組織力を中心として全国民が反対闘争に起ち上らなくてはならないだろう。